

平成26年12月24日号

学校だより

放生津

射水市立放生津小学校

TEL 82-8020

houjoudu@tym.ed.jp

自分で開けた戸は自分で閉める

校長 亀谷 寿一



先日、職員室のコピー機のメンテナンスにこられた業者さんがお話しされたことです。「私が、玄関から入ろうとしたとき、荷物で手がふさがっていたのですが、掃除をしていた女の子がスリッパをスッと差し出してくれました。この仕事を30年やっていますが、子供さんにこんなことをしてもらったのは初めてです。」と、大変感激しておられました。

また、本校は昼の休み時間の後に清掃を行っているのですが、何人かの子供たちが休み時間から自主的に清掃を始めています。「休み時間なのにありがとう。」と声を掛けると、「どうせ、暇だから。」と照れくさそうに答える姿がとても清々しいのです。

さらに、ある日の放課後、児童玄関に迎えの車を待っている子供たちや、その子供たちと遊んでいる子供たちがいた時のことです。ある先生が花壇の清掃をしていました。たまっていたたくさんの落ち葉を集めて運んでいる大変そうな様子を見て、すぐに数人の子供たちが一緒に落ち葉運びをしてくれたそうです。

このように、自らの判断で人の役に立つ良い行いができる子供たちがたくさんいることを私はとてもうれしく思います。このような行いは、ご家庭での日頃のご指導のおかげであると感心するばかりです。

一方、ある日の休み時間、私は図書室で子供たちの様子を見ていたのですが、部屋に出入りする子供たちの中に、自分で開けた戸を自分で閉めていかない子が少なからずいました。また、人が開けた戸を開けた人より先にくぐり抜けようとする子もいました。自己中心的な行動は、幼児期の心理的特性とも言われますが、そのまま大人にならないようにしなければなりません。

子供の自己中心性は、まだ他者の立場から物事を見ることができないことからきていると思われまます。しかし、心理学者によると4歳以上の子供は、他者の立場から物事を見る能力は既に備わっているそうです。つまり、小学生の場合、他人の身になって考える機会を作っていくことが大切であるといえます。

まずは、「自分で開けた戸は自分で閉める」という簡単なことからしつけていきたい。そのように感じましたのでここでお話ししました。



特集 子供の学力の向上を目指して

私達は、全国学力・学習状況調査（時期：4月、対象：6年、実施主体：文科省）、小教研学力調査（時期：4月、11月、対象：全学年、実施主体：県小教研）の学力調査等の結果を基に、子供たちの学力の現状と課題を分析し、日々の授業改善に生かしています。

ここにその概要をお知らせし、保護者や地域の皆様と共に、子供たちの学力の向上に努めてまいりたいと思います。

1. 現状と課題の把握（国語、算数、理科、その他）

国語	○目的に応じて、話合いの観点を整理する問題に強い。 ▲漢字の読み書きに弱い。
算数	○数量の関係を表したりグラフを解釈したりする問題に強い。 ▲計算の決まりや立体の問題に弱い。
理科	○観察・実験の方法や結果に関する問題に強い。 ▲理科のきまり（法則）が生活にどのように生かされているか問う問題に弱い。
その他	○平均値では、家庭で授業の復習をよくしている。 ▲家庭で宿題をしない子供の割合が高い。 } 二極化の傾向

2. 対策の立案と実践

(1) 授業改善

① 目標

- ・学習課題を明確にして、子供が何を学んだのか実感できる授業を目指す。
- ・授業の「導入」「展開」「終末」を意識し、メリハリのある授業を目指す。

② 実践のポイント

強みを生かす：子供同士の話し合い活動を充実させ、級友の考えを正しく理解し、全体の傾向を整理して表現する機会をもつ。（グループ学習の活用）

弱点の克服：漢字等の学習に、長期記憶を形成する学習を工夫する。（楽しく繰り返す学習法）

(2) 家庭学習の充実

① 目標

- ・全員が興味をもって自分の力を伸ばそうと夢中になる家庭学習を目指す。

② 実践のポイント

強みを生かす：家庭でよく復習をしている子供の事例を紹介し合い、学習を継続していこうとする意欲を喚起する。

弱点の克服：翌日、学校で皆に見せたい家庭学習課題を工夫する。（子供のできる課題、できると褒められる課題）

3. 連携の大切さ

子供たちの学力向上を目指し、「授業改善」と「家庭学習の充実」の2本の柱を紹介しましたが、柱は3本のほうが安定します。3本目の柱は、間違いなく「家庭、地域と学校の連携」であると思います。家庭や地域の皆様には、日頃から多大なご支援をいただいておりますが、子供たちが元気に学校へ通えるよう、温かく見守り支えていただきますよう心よりお願い申し上げます。

4. 授業研究による授業力の向上（互見授業）

教師が互いの授業を参観し、協議し合うことによって授業改善を図ります。全教員が年に1～2回以上の研究授業を行ないます。下は、本校の授業力向上推進リーダーの研究授業の指導案と実際の授業の様子です。

理科の学習

- (1) ねらい
水に溶ける気体があることを実感する。
(2) 展開

学習活動（特徴）	子供の意識の流れ	教師の注
1. 食塩や砂糖と同じように気体も水に溶けるかどうか考える。（本時の問題） 5分		・5年生の時の学習を想起できるように、食塩を実際に溶かす。 ・気体は水に溶けるかどうか、投げかける。
2. 酸素や窒素、二酸化炭素が水に溶けるかどうか実験する。（30分） 	酸素や窒素、二酸化炭素が水に溶けるかどうか確かめてみたいかな。 コム平紙 マダラテックスローラー（調音機）	・気体別に予想をとり、自分の立場をはっきりとして実際に臨む。 ・考える手がかりとなるように、空気が溶けるかどうか実際にやってみる。 ・水上置換で気体を集める方法等、実験の諸注意をする。
3. 二酸化炭素は水に溶けているのか考え、実験する。（10分）	二酸化炭素が入っていたビーカーの中の水には二酸化炭素が溶けているのかな。	・二酸化炭素を入れたビーカーの中の水は、泡のような物が見えないけど、本当に溶けたのかどうか投げかける。
4. 水に溶けた二酸化炭素を再び取り出せるのか考え、実験する。（15分）	二酸化炭素を再び取り出せるかな。	
5. 温めたときに出てきた泡は二酸化炭素かどうか考え、実験する。（10分）	出てきた泡は、二酸化炭素かどうか確かめたいかな。	・泡を集める装置を提示する。
6. 二酸化炭素が水の中で溶けているイメージ図を描く。（15分）	二酸化炭素が水に溶けているときはどうなっているのかな？	・見えない物が見える眼鏡があったら、二酸化炭素はどうなっているのかと投げかける。
7. 考察を書く。（5分） ・水に溶ける気体と溶けない気体がある。二酸化炭素は水に溶ける。気体も粒だと考えれば、食塩と同じように溶け、わともと気体だからすぐ以外に出ようとするのだろう。		・本時の学習問題についての考察となることと、事実を元に問題についての考えを書くことを伝える。



「うまく二酸化炭素をいれられるかな？」



「出てきたのは本当に二酸化炭素なのかな？」

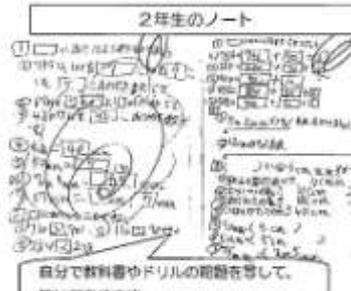
5. 家庭学習ノートの紹介

1年生のノート



時間を計ってマス計算の練習をがんばっています。

2年生のノート



自分で教科書やドリルの前題を写して、書いてあります。

3年生のノート



同じ前題の漢字を調べてあります。

3年生のノート



一文字ずつ丁寧に練習しています。

4年生のノート



計算問題だけでなく、文章題の練習もしています。

4年生のノート



漢字の書型や組み方をしっかりまとめられています。

5年生のノート



漢字練習や計算練習だけでなく、ことわざの勉強も書いてあります。

6年生のノート



計算スペースを作り、計算の定数を残しているところがあります。

（家庭学習ノートは、H26、11月配布の「家庭学習について」のものを再掲載しました。）

最近のはとっ子 (H26, 11, 24~)

10月24日 (金) 校内マラソン大会

今年のマラソン大会は、順位を競い合うだけでなく、個人の目標タイムの達成を目指しました。

2, 4, 6年は
昨年の自分のタイムからどれだけ伸ばせるか、3, 5
年は目安のタイムを超えることを目指しました。1年生は、今年のタイムで来年の目標が設定されます。

どのはとっ子も精一杯走る姿がとてもまぶしかったです。



10月27日 (月) 演劇鑑賞会(5, 6年)

高周波文化ホールにおいて、射水市小学校演劇鑑賞会が開かれました。

演目は、劇団四季によるファミリーミュージカル「ふたりのロッテ」です。

射水市の小学校5, 6年生全員が鑑賞しました。

さすがに日本を代表する劇団の演技は見応えがあります。

(写真撮影禁止のため、写真はありません。)

11月5日 (水) 小学校教育課程研究集会

2年生と4年生が体育の授業を公開し、100名以上の会員が授業について協議しました。

また、日本体育大学から元文部科学省教科調査官の白旗和也教授をお招きし、講演をいただきました。



11月12日 (水) ラジオ出演(6年)

KNBラジオの「ラジオでビバクイズ」に生出演しました。



11月14日 (金) いのちの授業(4年)

講師は、塘添誠次(とうぞえ せいじ)さんです。塘添さんは、網膜色素変性症という病気のため視力を失われました。しかし、登山家で、障害者スポーツ指導員でもいらっしゃいます。塘添さんの優しさとチャレンジ精神に満ちたお姿から、多くのことを学ばせていただきました。



11月20日 (木) いのちの授業(5年)

講師の先生は、永井友恵(ながい ともえ)さんです。永井さんは、生体肝移植を経験され、手術後の痛みを乗り越え、夢と希望を取り戻すまでのお話をしてくださいました。いのちの重みについて真剣に考える機会をいただきました。



11月27日 (木) 感謝の集い

日頃からお世話になっている地域の方々をお招きして、「感謝の集い」を開催しました。

子供見守り隊やポッポの会の皆さん、放課後教室の指導者の先生方、地域ボランティアの皆さん等たくさんの方々に参加してくださいました。

各学年からの出し物やゲーム等をして楽しい時間を過ごしました。皆さん、本当にありがとうございました。



2学期も保護者や地域の皆様のお陰で、子供たちの健やかな育ちを多く見つけることができました。ありがとうございました。

